

## GUEST1000\_2

3801: 金蛇<sup>かなへび</sup>が龍<sup>りゅう</sup>に見えたなど、針小棒大<sup>しんしょうぼうだい</sup>もいいところです。

3802: 去年<sup>きょねん</sup>のウィニングランの思い出<sup>おもいで</sup>を、一晩中<sup>ひとばんじゅう</sup>聞かされました。

3803: クアルテットの演奏会<sup>えんそうかい</sup>を控えて、彼<sup>かれ</sup>と喧嘩<sup>けんか</sup>しました。

3804: イェーガーさんの法螺吹き<sup>ほらふき</sup>の甚<sup>はなは</sup>だしさは、何<sup>なん</sup>とかならないのですか？

3805: ニエンさんが腸捻転<sup>ちようねんてん</sup>になって、入院<sup>にゅういん</sup>してしまったのです。

3806: ツァーリの即位式<sup>そくいしき</sup>が、厳<sup>おごそ</sup>かに行<sup>おこな</sup>われています。

3807: くぅー痺<sup>しび</sup>れる、こんなに恋焦<sup>こいこ</sup>がれる気持<sup>きもち</sup>ちは、初<sup>はじ</sup>めてなんです。

3808: ハンガリーのギェネシュディアーシュで作<sup>つく</sup>られた、尊<sup>とうと</sup>い掛<sup>か</sup>け軸<sup>じく</sup>です。

3809: この成果<sup>せいこ</sup>は、ジュヌヴィエーヴ様<sup>さま</sup>のご協<sup>きょうりよく</sup>力<sup>よ</sup>に因<sup>よ</sup>るものです。

3810: ドゥーイットユアセルフこそが、峠越<sup>とうげご</sup>えに重<sup>じゅうよう</sup>要<sup>よう</sup>なのです。

3811: グラム土産<sup>みやげ</sup>のコーヒーを淹<sup>い</sup>れてあげたのに、不<sup>ふ</sup>満<sup>まん</sup>だと言<sup>い</sup>うんです。

3812: ペーターソンさんなら、キトゥリちゃんといっしょ<sup>いっしょ</sup>に外<sup>がい</sup>出<sup>しゅつ</sup>しました。

3813: なんてえなんてえ、挫<sup>くじ</sup>けてる場合<sup>ばあい</sup>じゃない、目<sup>め</sup>指<sup>ざ</sup>すは世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>制<sup>せい</sup>覇<sup>は</sup>です。

3814: 帆<sup>ほ</sup>に豆<sup>とう</sup>苗<sup>みょう</sup>を描<sup>えが</sup>いた帆<sup>はん</sup>船<sup>せん</sup>が、大<sup>おお</sup>海<sup>うみ</sup>原<sup>はら</sup>を進<sup>すす</sup>みます。

3815: 足<sup>あし</sup>を怪<sup>け</sup>我<sup>が</sup>したピョートルは、テョテョテョと変<sup>へん</sup>な声<sup>こえ</sup>を上<sup>あ</sup>げていました。

3816: てゃーと気<sup>き</sup>合<sup>あい</sup>を入<sup>い</sup>れて、牙<sup>きば</sup>を剥<sup>む</sup>いたライオンに飛<sup>と</sup>び掛<sup>か</sup>かりました。

3817: この襖<sup>ふすま</sup>絵<sup>え</sup>は、有<sup>ゆう</sup>名<sup>めい</sup>な書<sup>しょ</sup>家<sup>か</sup>の作<sup>さく</sup>で、八<sup>はっ</sup>百<sup>ひゃく</sup>万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>もします。

3818: ジョヴォヴィッチの突<sup>とつ</sup>然<sup>ぜん</sup>の告<sup>こく</sup>白<sup>はく</sup>に、マーシィが困<sup>こん</sup>惑<sup>わく</sup>しています。

3819: ピノキオはベビーベッドを揺<sup>ゆ</sup>すぶり、子<sup>こ</sup>守<sup>もり</sup>歌<sup>うた</sup>を歌<sup>うた</sup>います。

3820: ハチャトウリアンは、クォークの教<sup>きょう</sup>科<sup>かしよ</sup>書<sup>しよ</sup>を、デスクの上<sup>うえ</sup>に載<sup>の</sup>せました。

3821: そのバンドのローディは、一<sup>いっしょうびん</sup> 升<sup>かつ</sup> 瓶<sup>びん</sup> を担<sup>かつ</sup> いでスキップしました。

3822: 愛媛<sup>えひめ</sup> では、半<sup>はんぎょじん</sup> 魚<sup>ぎょ</sup> 人<sup>じん</sup> の発掘<sup>はつくつ</sup> 作<sup>さ</sup> 業<sup>ぎょう</sup> が、佳境<sup>かきよう</sup> に入<sup>はい</sup> りました。

3823: グェンさんと背<sup>せい</sup> 比<sup>くら</sup> べなんて、あたくしが負<sup>ま</sup> けるに決<sup>き</sup> まっています。

3824: 有<sup>ゆう</sup> 名<sup>めい</sup> なツェルニーの練<sup>れん</sup> 習<sup>しゅう</sup> 曲<sup>きょく</sup> で、ピアノの稽古<sup>けいこ</sup> をします。

3825: 可愛<sup>かわい</sup> いにゃんこの柄<sup>がら</sup> の着物<sup>きもの</sup> を身<sup>み</sup> に着<sup>つ</sup> けて、お出掛<sup>で</sup> けします。

3826: 源汰<sup>げんた</sup> は、ヴォルケーノが熱<sup>あつ</sup> い溶<sup>よう</sup> 岩<sup>がん</sup> を噴<sup>ふ</sup> くのを見<sup>み</sup> ていました。

3827: ロンセスバーリエスの親戚<sup>しんせき</sup> がくれた、缶詰<sup>かんづめ</sup> を食<sup>た</sup> べますか？

3828: おいらみたいな不細工<sup>ぶさいく</sup>、誰<sup>だれ</sup> も顧<sup>かえり</sup> みてくれないのは分<sup>わ</sup> かっています。

3829: ベートーヴェンを聴<sup>き</sup> きながら、逮捕術<sup>たいほじゆつ</sup> を学<sup>まな</sup> ぶと効果<sup>こうか</sup> 的<sup>てき</sup> です。

3830: ゾンビの写<sup>しゃ</sup> 真<sup>しん</sup> を撮<sup>と</sup> るのは、ちょっとばかり骨<sup>ほね</sup> が折<sup>お</sup> れるのです。

3831: あの岸壁<sup>がんぺき</sup> の向<sup>む</sup> こうに、七十<sup>ななじゅう</sup> 羽<sup>う</sup> 程<sup>ほど</sup> の白<sup>はく</sup> 鳥<sup>ちょう</sup> が見<sup>み</sup> えます。

3832: 食卓<sup>しょくたく</sup> には、美味<sup>おい</sup> しいリングィネの準<sup>じゅん</sup> 備<sup>び</sup> が整<sup>ととの</sup> っています。

3833: グレイトなティーチャーになるのが、フォンの嘗<sup>かつ</sup> ての夢<sup>ゆめ</sup> だったのです。

3834: 菜<sup>な</sup> の花<sup>はな</sup> の咲<sup>さ</sup> く丘<sup>おか</sup> の上<sup>うえ</sup> で、小父<sup>おじ</sup> さんとミュージカルを観<sup>み</sup> ました。

3835: ミスターテューダーが、祖父母<sup>そふぼ</sup> の弔<sup>ちようもん</sup> 問<sup>もん</sup> に訪<sup>おとず</sup> れてくれました。

3836: 社内報<sup>しゃないほう</sup> に金剛力士像<sup>こんごうりきしぞう</sup> が載<sup>の</sup> っていて、ときめきました。

3837: 煎茶<sup>せんちゃ</sup> を零度<sup>れいど</sup> の氷<sup>こおりみず</sup> 水<sup>ちゅうしゆつ</sup> で抽<sup>ちゅう</sup> 出<sup>しゅつ</sup> すると、とても美味<sup>おい</sup> しいです。

3838: イフェレーミェンコは、女王<sup>じようおう</sup> の戴冠式<sup>たいかんしき</sup> の準<sup>じゅん</sup> 備<sup>び</sup> に掛<sup>か</sup> かりました。

3839: 弊社<sup>へいしゃ</sup> でプチトマトのケーキを開<sup>かい</sup> 発<sup>はつ</sup> した理<sup>り</sup> 由<sup>ゆう</sup> を述<sup>の</sup> べます。

3840: 夕暮<sup>ゆうぐ</sup> れの丘<sup>きゅうりょう</sup> 陵<sup>りょう</sup> は、ヴァーミリオンに輝<sup>かがや</sup> き燃<sup>も</sup> えるようでした。

3841: たった五<sup>いつ</sup> つの子<sup>こ</sup> がトウシューズを履<sup>は</sup> くのは、早過<sup>はやす</sup> ぎると思<sup>おも</sup> います。

3842: ひろさき みさお なかよ  
弘 前 では、 操 はスィーリアちゃんと、とっても仲良しでした。

3843: ふしぎ ちから あやつ  
スチュワートは、不思議なオーヴの 力 で、ドラゴンを 操 ります。

3844: ゆうきさいばい しんよう つか たいひか ひつよう  
有機栽培に尿尿を使うなら、堆肥化する 必要 があります。

3845: ぶんかさい ひろ こうてい おど  
文化祭のラスト、広い校庭で、フォークダンスを踊ります。

3846: ふくろいっばい いち つく はんばい  
袋 一杯のジャガ芋でコロッケを作り、販 売 します。

3847: じけん お たんてい むちゅう  
ヴィクトリアは、事件が起こると探 偵 ごとに夢 中 になります。

3848: かし じょじょうてき き なみだ こぼ  
ジェンセンの歌詞は抒 情 的で、聴くたび 涙 が零れます。

3849: ひょうどう ごかいしょ あししげ かよ  
兵 藤 さんは、碁会所に足 繁 く通うようになりました。

3850: たまこ も つ なが  
珠子は、ウェイトレスが盛り付けた、ガパオライスを眺めました。

3851: あきうおんせん ちめい ゆらい ちゅうもく  
秋保温泉の地名の由来が、注 目 されています。

3852: かんしつぶつ みつ なみだ こら  
デュパンは乾 漆 仏を見詰めて、ぐっと 涙 を堪えました。

3853: びやくえかんのん おが なや うんさんむしょう  
白衣 観 音を拝んだら、悩 みも雲 散 霧 消 しました。

3854: にいさま こうてい ぎ ぜったい ゆず  
兄 様 にとって、皇 帝 の座は絶 対 に譲れないものです。

3855: お ば だいがくじゅけん べんきょう はじ  
フィリピンの伯母が、大 学 受 験 の勉 強 を始めました。

3856: とうにゅう そそ き  
ジュリアが、豆 乳 を注ぎながらハミングするのが聞こえます。

3857: ふゆ さむ びょういん なか あたた  
シベリアの冬は寒いけれど、病 院 の中は 暖 かいです。

3858: お じ うんてんめんきょ へんのう い だ  
叔父のジョゼフが、運 転 免 許 を返 納 すると言い出しました。

3859: にせさつづく きょうりよくで き わけ  
ひえー、偽 札 作りなんて、協 力 出来る訳がありません。

3860: お づる くにおお ひと つく  
折り鶴はこの国ではポピュラーで、多 くの人が作れます。

3861: うえき みず じょうろ もち あ まえ  
植木の水やりに如雨露を用いるのは、当 たり 前 のことです。

3862: たくさん わこうど た ある  
沢 山の若 人 が、マリトッツォを食 べ 歩 いています。

3863: ライプツィヒ<sup>しゅっしん</sup>出身のムッシュハイน์リヒは、朗<sup>ほが</sup>らかな方<sup>かた</sup>です。

3864: ウォーリーが、ピニャコラーダを一つ<sup>ひと</sup>注文<sup>ちゅうもん</sup>して、飲<sup>の</sup>んでいました。

3865: 貴女<sup>あなた</sup>のぎこちない笑顔<sup>えがお</sup>が、僕<sup>ぼく</sup>の心<sup>こころ</sup>を照<sup>て</sup>らしてくれます。

3866: 咸臨丸<sup>かんりんまる</sup>で、ハンガリーのズィチウーイファルに行<sup>い</sup>きたいのです。

3867: ハートのクィーンは、裁判<sup>さいばん</sup>の行方<sup>ゆくえ</sup>を愁<sup>うれ</sup>える日<sup>ひ</sup>が続<sup>つづ</sup>きます。

3868: リャンメン待ち<sup>ま</sup>だったのに、貧血<sup>ひんけつ</sup>で倒<sup>たお</sup>れてしまったのです。

3869: チェストにたっぷり積<sup>つ</sup>もっていた埃<sup>ほこり</sup>を浴<sup>あ</sup>びせられたのです。

3870: お腹<sup>なか</sup>がぐうと鳴<sup>な</sup>って、堪<sup>たま</sup>らず卓袱台<sup>ちゃぶだい</sup>の箸<sup>はし</sup>を掴<sup>つか</sup>みました。

3871: フェーン現象<sup>げんしょう</sup>による猛暑<sup>もうしょ</sup>で、汗<sup>あせ</sup>が滝<sup>たき</sup>のように流<sup>なが</sup>れます。

3872: びええんびええんと泣<sup>な</sup>く子供<sup>こども</sup>らのため、歩合制<sup>ぶあいせい</sup>で頑張<sup>がんば</sup>ります。

3873: 初めて百十番<sup>ひゃくとうばん</sup>をしたのは、ジェイドが九<sup>ここの</sup>つの時<sup>とき</sup>でした。

3874: デャンフレスは、五人<sup>ごにん</sup>の甥<sup>おい</sup>っ子<sup>こ</sup>と姪<sup>めい</sup>っ子<sup>こ</sup>を養<sup>やしな</sup>っています。

3875: 懐<sup>ふところ</sup>に胡瓜<sup>きゅうり</sup>を忍<sup>しの</sup>ばせて、河童探<sup>かつばさが</sup>しに出掛<sup>でか</sup>けます。

3876: 喘息<sup>ぜんそく</sup>を堪<sup>こら</sup>えながら、漸近線<sup>ぜんきんせん</sup>を求<sup>もと</sup>めていました。

3877: デヨン君<sup>くん</sup>は、ウィリアムスンの事<sup>こと</sup>を見限<sup>みかぎ</sup>ったのだと思<sup>おも</sup>います。

3878: システムの冗長化<sup>じょうちょうか</sup>の為<sup>ため</sup>に、逸見君<sup>へんみくん</sup>は頑張<sup>がんば</sup>っています。

3879: 可愛<sup>かわい</sup>がっていた鸚哥<sup>いんこ</sup>が逃<sup>に</sup>げ、ショスタコーヴィチは悲<sup>かな</sup>しみました。

3880: 岡部<sup>おかべ</sup>さんは、仙台市太白区<sup>せんだいしたいはくく</sup>にマンションを建<sup>た</sup>てました。

3881: ジョンがバックトゥザフューチャーを好<sup>この</sup>むのか、確<sup>たし</sup>かめたいです。

3882: ジェニーには、中州<sup>なかす</sup>のドラッグストアで買<sup>か</sup>ったビューラーをあげます。

3883: キューツと柄<sup>がら</sup>にもなく叫<sup>さけ</sup>んで、長宗我部君<sup>ちょうそかべくん</sup>が暴<sup>あば</sup>れています。

3884: 幾子<sup>いくこ</sup>ちゃんが、ファックスで可愛い<sup>かわい</sup>イラストを送<sup>おく</sup>ってくれました。

3885: 飢饉<sup>ききん</sup>を無く<sup>な</sup>す、グローバルなキャンペーンが<sup>おこな</sup>行<sup>な</sup>われています。

3886: この不始末<sup>ふしまつ</sup>は、後の世<sup>のち</sup>にまで脈々<sup>みやくみやく</sup>と語り継<sup>かた</sup>がれるでしょう。

3887: デュークは陛下<sup>へいか</sup>の<sup>まえ</sup>前に<sup>ひざまず</sup>跪<sup>い</sup>き、祈<sup>ささ</sup>りを捧<sup>ささ</sup>げました。

3888: こんな妥協<sup>だきよう</sup>で迎<sup>むか</sup>えたフィニッシュでは、満足<sup>まんぞく</sup>できません。

3889: ヒューイットの事<sup>こと</sup>が忘れ<sup>わす</sup>られないと、シャルルは嘆<sup>なげ</sup>きました。

3890: 昨日<sup>きのう</sup>シュゼットと会<sup>あ</sup>ったのですが、大分<sup>だいぶん</sup>疲<sup>つか</sup>れていたようでした。

3891: ゾラは厭世<sup>えんせい</sup>的な<sup>てき</sup>気持ちで、独<sup>ひと</sup>りシェリー酒<sup>しゅ</sup>を飲<sup>の</sup>みました。

3892: クェックェツと鳴<sup>な</sup>く海鳥<sup>うみどり</sup>の<sup>こえ</sup>声<sup>き</sup>を聞<sup>き</sup>くと、船酔<sup>ふなよ</sup>いが酷<sup>ひど</sup>くなりました。

3893: 子猫<sup>こねこ</sup>をお風呂<sup>ふろ</sup>に入<sup>い</sup>れたら、ぴえーぴえーと鳴<sup>な</sup>いて嫌<sup>いや</sup>がりました。

3894: 湯たんぽ<sup>ゆ</sup>は便利<sup>べんり</sup>ですが、低温火傷<sup>ていおんやけど</sup>は回<sup>かい</sup>避<sup>ひ</sup>しましょう。

3895: ルックスとギャップ<sup>い</sup>があると言<sup>い</sup>われますが、実<sup>じつ</sup>は<sup>つ</sup>尽くすタイプです。

3896: パパがあ<sup>おとこ</sup>の男<sup>しん</sup>を心<sup>しん</sup>底<sup>そこ</sup>憎<sup>にく</sup>んでいた<sup>し</sup>こと、知<sup>し</sup>っていますか？

3897: グォンさんの眩<sup>まばゆ</sup>い美<sup>うつく</sup>しさ、最早<sup>もはや</sup>罪<sup>つみ</sup>だと思<sup>おも</sup>いませんか？

3898: 亮<sup>りょう</sup>が、執筆<sup>しつぴつ</sup>中<sup>ちゅう</sup>の戯曲<sup>ぎきょく</sup>の梗概<sup>こうがい</sup>を話<sup>はな</sup>してくれました。

3899: ルディが白衣<sup>はくい</sup>に牛乳<sup>ぎゅうにゅう</sup>を零<sup>こぼ</sup>して、ぎゃあぎゃあ叫<sup>さけ</sup>んでいました。

3900: 土手<sup>どて</sup>に独<sup>ひと</sup>りで座<sup>すわ</sup>っている子<sup>こ</sup>、ひょっとしてピョンピョンちゃんですか？

3901: ドーウェル君<sup>くん</sup>は、ピンクの表紙<sup>ひょうし</sup>の手帳<sup>てちょう</sup>を、大切<sup>たいせつ</sup>にしている。

3902: てやんでえ、弁償<sup>べんしょう</sup>なんかや<sup>や</sup>ってられ<sup>られ</sup>っか、と祖父<sup>そふ</sup>は啖呵<sup>たんか</sup>を切<sup>き</sup>った。

3903: あれがドゥカーレ宮殿<sup>きゅうでん</sup>である事<sup>こと</sup>は、一<sup>いち</sup>目<sup>もく</sup>瞭<sup>りょう</sup>然<sup>ぜん</sup>だ。

3904: グォノさんの才<sup>さい</sup>能<sup>のう</sup>が埋<sup>う</sup>もれてしまうのは、勿体無<sup>もったいな</sup>い事<sup>こと</sup>だ。

3905: わがはい しゅじんさま だいがく きょうべん と  
吾輩のご主人様は、大学で教鞭を執っているのだ。

3906: さいとう ぎり おとうと い りゅう  
齋藤さんの義理の弟が、クウェートに居る劉さんだ。

3907: かじやまけ きょうだいそろ だい にがて  
梶山家は兄弟揃って、コンピューターが大の苦手だ。

3908: ウォルトの、ホロスコープをつか うらな だいひょうばん  
を使った占いは、大評判だ。

3909: りしゅりゅうが、ねんしゅうきゅうひゃくまんえんきぼう ほんとう  
リシュリューが、年収九百万円希望って本当か？

3910: えみ いち ゆうとうせい ぶんぼうぐ す  
恵美はクラス一の優等生で、ファンシィな文房具が好きだ。

3911: りんか きゃくじん しちがはままち き  
隣家の客人は、七ヶ浜町からやって来たようだ。

3912: けいしゃ に だ にわとり じゅうか まわ  
鶏舎から逃げ出した鶏が、そこら中駆け回っている。

3913: ソーニャには、べんぎてき まつだいら はい  
便宜的に、松平のグループに入ってもらおう。

3914: こうていえき りゅうこう ぜったい く と  
口蹄疫の流行を、絶対に食い止めねばならない。

3915: そのフューエルタンクには、よ ぼ えが  
四つ葉のクローバーが描かれていた。

3916: しょうこ たみぞう ね で はず  
これだけ証拠があれば、もう民造には、ぐうの音も出ない筈だ。

3917: くおんし のぼ よ おも で  
久遠氏と、ヒメルビェアウエズに登ったのは、良い思い出だ。

3918: がくねん ししゅ た  
学年トップを死守したら、このジュースィーなメロンが食べられる。

3919: らふまにノフのカデンツァは むずか はるか た いき つ  
難しいと、春香は溜め息を吐く。

3920: す ひと きょひ せつ い  
好きな人に拒否されるのは切ないものだと、ジョナサンは言った。

3921: クローゼットの とびら ひら ちょう なら  
扉を開くと、蝶ネクタイが並んでいた。

3922: ヴァルヴェルデに ず とき こと おれ すべ はな ほ  
住んでいた時の事、俺に全て話して欲しい。

3923: クォーターバックの いがらし たいへんふつき じんぶつ  
五十嵐さんは、大変富貴な人物だ。

3924: グインさんの くどく い なみたいてい もの  
功德と言ったら、そりゃ並大抵の物ではない。

3925: そら う ゆうひ あ あか そ  
空に浮かぶツェッペリンが、夕日を浴びて赤く染まっていた。

3926: ゆたか けいえい びょういん うんてんしきん か  
裕 の 経 営 する 病 院 に、 運 転 資 金 を 貸 した。

3927: はかせ うじ そだ ことわざ ふ  
インタビューで博士は、氏より育ちという 諺 に触れた。

3928: りゅうこう うと み ためし な  
流 行 に 疎 くて、トレンディドラマだって観た 例 が無い。

3929: じゅうご まち まか い かずや と だ  
銃 後 の 守 りは 任 せたぜと 言 っ て、和也は 飛 び 出 した。

3930: じょげん かげ うかいぶちょう ぶ じかえ き  
チャルさんの 助 言 の お 陰 で、鵜飼部長は無事帰 っ て 来 た。

3931: ぼく うれ お かお げかい み お  
僕 の ディーヴァは、愁 い を 帯 び た 顔 で、下界を見下ろしている。

3932: しゃちょう あ はっぴやくまんえんぬす  
社 長 が ひ っ た く り に 遭 っ て、八 百 万 円 盗 ま れ た。

3933: こが ふ すさ よふ はくびしん か い  
ヒュウヒュウ木枯らしの 吹 き 荒 ぶ 夜 更 け、白鼻芯が 駆 け て 行 く。

3934: じゅんな た わか  
純 菜 と は、キャベツとアンチョビのスパゲッティを 食 べ て 別 れ た。

3935: じっか きせい おうさんみやく おもむ  
実家に 帰 省 した つ い で に、奥 羽 山 脈 に 赴 い た。

3936: しんわ かみ せいじん し  
クイリーヌスは、ローマ神話の 神 だ と、成 人 し て か ら 知 っ た。

3937: かおる かみ め ぎ えだげ たたか  
薫 さん は、テュルテュルの 髪 を 目 指 し、枝毛と 戦 っ て いる。

3938: た ある ゆめ むね ひ  
クアンジャンシジャンで 食 べ 歩 き を する 夢 を、胸 に 秘 め て いる。

3939: いつ じかん せいかく あだな ある とけい  
シェーンは 何 時 も 時 間 に 正 確 で、綽 名 は 歩 く 時 計 だ。

3940: み うちゅうくうかん ただよ ゆめ  
ジャスミンが 見 た の は、宇 宙 空 間 に 漂 う ファンタジックな 夢 ですか？

3941: まご しちごさん いわ りょうり なや  
孫 の 七 五 三 の お 祝 い の 料 理 に つ い て、悩 ん で いる。

3942: じょうけんか いほうせい そきやく かんが  
その 条 件 下 で、違 法 性 が 阻 却 さ れ る と は、考 え ら れ ぬ。

3943: ま おお ふく  
スープに 混 ぜ た モロヘイヤには、クエルセチンが 多 く 含 ま れ る。

3944: ひにょうきか かんばん そう えが  
泌尿器科の 看 板 に、象 の イラストが 描 か れ て いる。

3945: むかしす いえ おく あみだによらい もくぞう  
昔 住 ん で い た 家 の 奥 に、阿弥陀如来の 木 像 が あ っ た。

3946: そしき し  
まさか、あの 組 織 の リーダーが、グェンドリンだなんて 知 ら な か っ た。

3947: ウィッシュリストに載っている物から、贈答品を選ぶつもりだ。

3948: じゃんけん必勝法を教えてくれる機械を、発明した。

3949: 渡邊が作るずんだブラマンジェは、頬が落ちる美味しさだ。

3950: 風情ある景色を見ながら食べる、パンプディングは最高だ。

3951: この土地で乳牛を飼って、旨いチーズやバターを作る。

3952: パティシエはパイナップルを削り抜き、中に苺を詰め込んだ。

3953: 開演時間を早めるなんて、ミュラーから聞いていないぞ。

3954: サンテヨは、白いシャツに、ラナンキュラスの刺繍をしていた。

3955: ラズィーヤは、家政学部、被服学科の優等生なのだ。

3956: 侮辱された事も、逆転の発想で受け止めてみよう。

3957: 閑散としたパリの街を、トクトクトクで走り回った。

3958: ピエールの家の土蔵の扉は、固く閉ざされていた。

3959: ハオプトヴァッヒエに行く時も、蕎麦殻の枕を持って行く。

3960: 相性の良くない相手と居ると、具合が悪くなってくる。

3961: 小学校の時は、中尊寺を度々訪れた。

3962: 蓮が岩手でパラグアイの人に会うのは、これが初めてだ。

3963: お姉ちゃん、キエルツェ旅行の記憶が、もう薄れかけているの？

3964: ラッツォーリにプレゼントする化粧品を、買いに行くのだ。

3965: 徹夜で座禅を組むのは、エドモンドには流石に無理だった。

3966: チェイニーの按摩技術は、町中で大評判だった。

3967: バロネス・オルツィのファンが増えたら、蓼田君は喜ぶかな？



3968: シャオラン兄貴が泉中央に居てくれて、ちょうどよ

3969: 公園で、ミエエンミエエンと、キジトラの子猫が鳴いていた。

3970: ヴォーカルとギターが離婚したのは、もう五年も前の事だ。

3971: ザナドゥの旦那が、最も好きな飲み物は、ミントティーなのか？

3972: 米国人留学生達は、ポニーテールが好きだった。

3973: 際どい話になってきたので、ユーリヤはそっと席を立った。

3974: デュルケムの表情が曇るのを、土橋は見逃さなかった。

3975: 修学旅行で会津に行き、白虎隊について学んだ。

3976: 行方不明になったチャイヴを、龍彦はずっと探している。

3977: 沼田君は、同類項の意味がどうしても理解できない。

3978: 庭には瓢箪を植えようと、二人の意見が合致した。

3979: 妙な夢を見るのではないかと、不安で怖くて寝られない。

3980: 卓也のお姉さんが、アクゥアルの使い手だとは、驚きだ。

3981: 挨拶に代えて、ヴィエリが描いた、デョデョの肖像画を贈る。

3982: イェソンとガブリエルは、裏庭を掃除して、落ち葉を燃やした。

3983: 由紀ちゃんと崇君は、蕃山にピクニックに出掛けた。

3984: フォークナーは、最寄りの交番に駆け込み、助けを求めた。

3985: サフィーネは、でゃーと気合を入れて、鯨に銚を突き立てる。

3986: ブロッコリーは、殺伐とした空気に嫌気が差していた。

3987: 業務停止の圧力が強まり、ドルフィンは困惑した。

3988: 路子から、樹氷の撮影に成功したと、報告があった。

3989: 桃<sup>ももいろ</sup>色<sup>ほ</sup>のペチコートが欲しいと、ステファニーにねだられている。

3990: マリンブルーの液<sup>えきたい</sup>体<sup>の</sup>だが、飲<sup>ほう</sup>むと焙<sup>ちや</sup>じ茶<sup>あじ</sup>の味<sup>おどろ</sup>がして驚<sup>おどろ</sup>く。

3991: 立<sup>りゅうれい</sup>礼<sup>てまえ</sup>のお点<sup>ようす</sup>前の様<sup>ざいく</sup>子を、フェルト細<sup>さいげん</sup>工<sup>ざいく</sup>で再<sup>さいげん</sup>現<sup>さいげん</sup>した。

3992: 平<sup>へいじょうきょう</sup>城<sup>さか</sup>京<sup>さか</sup>が栄<sup>じだい</sup>えていた時代<sup>じだい</sup>に、タイムスリッ<sup>じだい</sup>プしてみたい。

3993: カフェバーリ<sup>ちようぼつ</sup>ェゾンのマス<sup>てつだ</sup>ターの、帳<sup>ちようぼつ</sup>簿<sup>てつだ</sup>付<sup>てつだ</sup>けを手<sup>てつだ</sup>伝<sup>てつだ</sup>ったのだ。

3994: 鼠<sup>ねずみ</sup>がびよ<sup>かお</sup>こんと顔<sup>だ</sup>を出<sup>えいへい</sup>したので、衛<sup>びつくり</sup>兵<sup>びつくり</sup>は吃<sup>びつくり</sup>驚<sup>びつくり</sup>した。

3995: ギェーという叫<sup>さけ</sup>びに、思<sup>おも</sup>わず王<sup>おうかん</sup>冠<sup>と</sup>を取<sup>お</sup>り落<sup>お</sup>としてしまった。

3996: こころで代<sup>だいきゅう</sup>休<sup>と</sup>を取<sup>と</sup>らせないと、リズィーが過<sup>かろう</sup>労<sup>たお</sup>で倒<sup>たお</sup>れてしまう。

3997: 樹<sup>じゅり</sup>理<sup>じゅり</sup>は、クラウディアをギ<sup>だ</sup>ュッ<sup>し</sup>と抱<sup>な</sup>き締<sup>さけ</sup>め、泣<sup>ゆる</sup>き叫<sup>こ</sup>んで許<sup>こ</sup>しを請<sup>こ</sup>うた。

3998: ウォルフィとアンドレアスは、福<sup>ふくしま</sup>島<sup>しょうにゅうどう</sup>の鍾<sup>おとず</sup>乳<sup>おとず</sup>洞<sup>おとず</sup>を訪<sup>おとず</sup>れた。

3999: 不<sup>ふぐう</sup>遇<sup>ふぐう</sup>のウラディーミルは、ニエ<sup>さけ</sup>ットと叫<sup>うみべ</sup>んで海<sup>か</sup>辺<sup>だ</sup>へ駆<sup>か</sup>け出<sup>だ</sup>した。

4000: ヴィットリオは、何<sup>いつ</sup>時<sup>きょうしつ</sup>も教<sup>ばら</sup>室<sup>はな</sup>に、薔<sup>た</sup>薇<sup>た</sup>の花<sup>た</sup>を絶<sup>た</sup>やさなかつた。